

ひまわり



令和2年1月17日(金)

鎮 魂



平成7年1月17日、私は阿倍野区のある場所で徹夜作業に追われていました。作業も一段落した午前5時過ぎ、地面を突き上げるような衝撃を受けました。最初は何が起こったのか分からず、気が動転しました。しばらくすると、大きな横揺れが来たので地震だと分かりました。これまでに経験したことのない大きな揺れ。一人暮らしをしていた母のことが心配になり、公衆電話で無事を確認したのを覚えています。

その後、当時勤めていた施設に出勤。8階建ての施設で、6階のワンフロアが図書館になっていましたが、何千冊もの本が床に落ちていました。また、施設内の点検を行ったところ、建物の内壁にいくつものひび割れが見られるなど、地震の大きさをあらためて感じました。

しかし、震源に近い兵庫県の各地で、さらにひどい状況があるとは思ってもみませんでした。テレビをつけると、続々と入ってくる惨状には驚くばかりでした。高速道路の倒壊、倒壊家屋から発生した火災など。

6434人が亡くなった阪神大震災から四半世紀が経ちました。今朝のテレビでは、地震発生時刻の午前5時46分に犠牲者を悼むようすが放映されていました。

あれから25年、大きな被害を受けた町は復興を果たし、大震災を知らない世代も増えてきました。だからと言って当時の記憶を消してはいけません。都市型の災害であった阪神大震災は多くの教訓を残しました。例えば、建物の耐震基準の大きな見直しです。また、混乱の中で、国や自治体の初動も遅かったのも事実でした。その後、震災時の初動も含めて危機管理のあり方が見直されました。さらに、被災者を支援する法律ができるきっかけにもなりました。

大震災から時を経て、ややもすればあの時の出来事が記憶の断片になってしまいそうな時があります。しかし、今後起こるであろう大震災の備えとして、あの時の記憶は消してはならないのです。また、それは教訓とともに後世に継承していかなければならないものです。震災に関わりお亡くなりになられた方に、改めて哀悼の意をささげます。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>